第３回　勢田川流域等浸水対策協議会

【日　時】平成 30 年 6 月 19 日（火）16:00～17:00
【場　所】伊勢商工会議所　４階中ホール
【出席者】別紙の通り

１．開　会	
２．挨　拶	
３．議　事	
（１） 勢田川流域等浸水対策実行計画（案）について	
・勢田川流域等浸水対策実行計画（案）	・・・資料１
・勢田川流域等浸水対策実行計画（案）概要版	・・・資料２
・勢田川流域等浸水対策実行計画（案）説明資料	・・・資料３
（２） 当面（平成３０年度）の取り組み状況について	・・・資料４
（３） その他	
４．閉　会	

1. 開　会

「勢田川流域等浸水対策協議会」を開会した。

２．挨　拶

伊勢市長

1 月 26 日に開催した第 1 回目協議会では、勢田川流域等浸水対策協議会を設立し、台風第 21 号の出水概要や浸水被害の状況、浸水の主な要因について情報共有を行い、今後の協議会の進め方について協議した。

3 月 29 日に開催した第 2 回目協議会では、浸水被害軽減に向けた 3 つの取り組みの方向性

〇河川整備や排水対策のハード対策について
〇迅速で確実な避難誘導を促がすソフト対策について
〇被災後の生活再建に向けた対策について

を確認した。また、平成 30 年度に実施するハード対策とソフト対策について確認し、各機関が連携して実施していくことを共有した。

本日開催の第 3 回目の協議会では、幹事会において短期及び中長期における効果的な連携方策について協議を進め、本協議会の目標である「浸水対策実行計画」の案がまとまったことから、協議をお願いしたい。

３．議　事

（１）勢田川流域等浸水対策実行計画（案）について

国から配布資料３により説明を行った。

（２）当面（平成３０年度）の取り組み状況について

各機関が配布資料４により説明を行った。

（３）その他

質疑応答

Ｑ．計画高水位は、どのくらいの確率規模のものか？

Ａ．勢田川直轄区間は、1／50 確率規模。
桧尻川指定区間は、1／30 確率規模。

【協議結果】

１）協議会で合意した事項

■今回の第３回協議会において協議した「勢田川流域等浸水対策実行計画（案）」について、表現等を精査の上、再度、関係機関で確認を行った後、（案）を外して「勢田川流域等浸水対策実行計画」を策定とし、その後早急に公表していく。

２）協議会で共有した事項

■「勢田川流域等浸水対策実行計画」に基づき、伊勢市・三重県・国の三者が連携して、ハード対策・ソフト対策を一体的に取り組み、効果的な浸水被害軽減対策を推進する。

■「勢田川流域等浸水対策実行計画」の推進について、PDCA サイクルによりフォローアップを実施する。

■汁谷川流域の浸水対策実行計画策定にあたっては、引き続き本協議会で検討していく。

■伊勢市は、当面（平成 30 年度）の取り組みとして、
・台風期までに勢田川の 7 箇所にフラップゲートを設置予定。
・平成 30 年度末までに汁谷川市管理区間の河道掘削を実施予定。

・平成 30 年度末までに勢田川、桧尻川、汁谷川に危機管理型水位計を設置予定。

■三重県は、当面（平成 30 年度）の取り組みとして、
・平成 30 年 6 月までに汁谷川県管理区間の河道掘削を実施済み。
・平成 30 年度末までに勢田川、汁谷川に危機管理型水位計を設置予定。

■国は、当面（平成 30 年度）の取り組みとして、
・平成 30 年 6 月までに勢田川北新橋右岸下流の緊急的な堤防かさ上げを実施済み。
・台風期までに勢田川 JR 参宮線勢田川橋梁部の緊急的な堤防かさ上げを実施予定。
・平成 30 年 3 月に勢田川 JR 参宮線勢田川橋梁部に危機管理型水位計を設置済み。
・台風期までに勢田川の河道掘削を実施予定。

４．閉会

三重河川国道事務所長

平成 29 年 10 月台風第 21 号の降水量は非常に多く、それに加え満潮と高潮が重なり特異な現象であったことは第１回協議会で報告した。

実行計画は、浸水被害を軽減するために我々のやるべきハード対策・ソフト対策をまとめた。ハード対策として、伊勢市は主に下水道整備、三重県は支川の河川整備、国は勢田川本川の河川整備を行う。対策を実施するにあたり、三機関の連携が大切である。実行計画が策定され、これからがキックオフとなる。

協議会や幹事会で、実行計画の進捗管理を行い、PDCA サイクルに基づいてフォローアップを行っていくことが大切である。

三重県県土整備部次長

実行計画の策定により、国や市と連携してハード・ソフト対策を行う。

ハード対策は、床上浸水解消に向けて進めていく。ソフト対策は、避難が迅速に行われるように進めていく。

汁谷川の河川整備計画を作成中で、土砂撤去や危機管理型水位計設置などできることから進めていく。

伊勢市長

本日は、第３回 勢田川流域等浸水対策協議会を開催し、目標とした「勢田川流域等浸水対策実行計画」を策定することができた。

平成 29 年 10 月台風第 21 号では、記録的な大雨と高潮がほぼ同時に発生したことから、伊勢市内では広範囲で浸水被害が発生した。

このようなこれまで経験したことがない大雨に対して、ハード対策により短期間で被害を完全に防ぐことは困難であるが、被害の軽減を図るための対策を集中的に、国、県、市が連携して、重点的に実施することと、中長期計画に基づき、対策のメニューを実施することで、浸水被害を防ぐ効果を確認した。

市としては、この実行計画に基づき、取り組みを進めていきたいと考えている。
国、県においても、本計画策定後も、引き続き連携し、対策の実施をともに進めていただくようお願いしたい。
この協議会が市民の皆様にとって安心して暮らしていただけるまちづくりの実現に繋がるよう尽力してまいるので、委員の皆様方今後もよろしくお願いしたい。

「勢田川流域等浸水対策協議会」を閉会した。